

**本物の探究を
めざす先生方へ**

PBL(プロジェクト型学習)を参考に
答え(ひとつの解)のない問いを扱う
実生活・実社会の課題を解決する
社会へ還元する学習

児童生徒が
作り出す

先生も地域
に出て、探究

「よいよい学校教育を通じて
よいよい社会を創る！」

児童生徒になってほしい姿やつきたい力を中学校
区の教職員で共有

つきたい力・そうなりたい姿の系統表の作成

小学校低学年	中学年	高学年	中学校1学年	2学年	3学年
自分のまわりから課題を 見つけられる。	地域のなかから、問題を発 見できる。	課題設定し、解決する方法 を考案できる。	自分の課題を自分の事として 考え、解決に向け見直しを もっている。	視野を広げ、課題解決に向 けて計画を立てている。	さらによくなるためには、ど うしたらよいか、模範をもっ て考えようとしている。
「なんで?」 「どうして?」	「なんで?」 「どうして?」	「どんな方法で?」 「自分なりにできる こと?」	誰がどんな ことを発言した のか板書		
自分の考えをもっと表現し ている。	自分の考えを比較 し、まとめたり伝えたりして いる。	よりよい考えを検討し、自分 のこぼれを表現している。		視野を広げ、納得感を高 めたい、表現している。	納得感を高めたい、効果的 に表現している。
できたこと、わかったことを 振り返っている。	学習計画に照らし合わせ て振り返っている。	学んだことを自分の生き方 につなげて振り返っている。		地域における自分の生き 方、生き方について考えて いる。	地域の課題解決に自分の こととして取り組んでいる。
「何がわかった?」 「何ができた?」 「何を学んだ?」	「何、どこまでで きました?」 「これは、どうやる? 何を?」	「自分は何ができた か?」 「これは、どうした のか?」			



1年目・2年目の
くわしい実践内容
は、こちらからご覧
いただけます。



神石高原町立三和中学校区

研究主題

主体性を発揮する児童生徒の育成
—「地域」を教材とした探究的な活動を通して—

児童生徒も

わくわく!
ときどき!

先生も

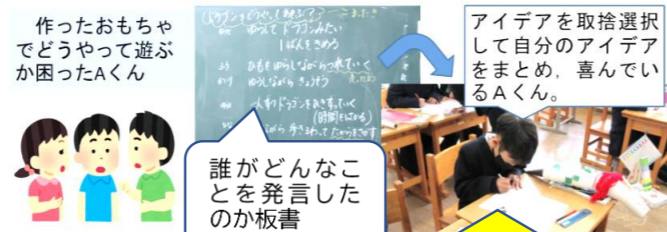
1年目の研究内容

- ① ルーブリック
- ② カードの活用
- ③ 指導者のファシリテート



「児童の実態把握と教師の出(で) (指導)」

指導者が全て段取りよく指導していくのではな
く、児童の実態をしっかり把握し、児童がつまづい
たときや、しっかり考えさせたいときにタイミング
よく指導する。(出る)



教師の出

- ④ 本物にふれる
- ⑤ 研修方法

あらかじめ決めておいたグループの児童生徒がど
んなつぶやきをしているか、どんな表情をしている
か等、子ども一人ひとりの姿を見取る。その見取った
姿をもとに語り合う教師集団をめざす。



2年目の研究内容

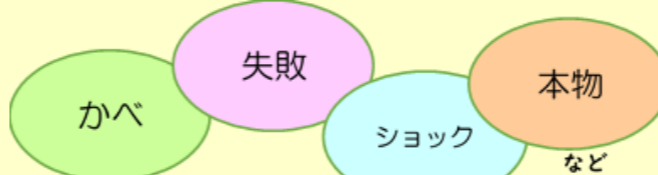
- ① 小中連携の充実
 - ② 導入の工夫
- 異学年交流で自分事



- 児童が自己決定
- 実際の社会にある課題を自分事に
- 自分をみつめる

③「立ち止まりポイント」の位置づけ

指導者が全てお膳立てしてスムーズに学習を進行
するのではなく、児童に立ち止まって考えさせる
場面を仕組む。立ち止まりポイントとは、児童の考
えが進まない場面であったり、失敗した場面であ
ったりする。立ち止まらせることで、思考を深めさ
せていく。



- ④ 指導者のファシリテート
- ⑤ 児童生徒の姿で語ることでできる教師集団

3年目の研究内容

① 「立ち止まりポイント」の効果的な位置付け
児童生徒が意欲的に探究活動を行っているかを常
に見取る。指導者は、ファシリテーターとしての立場
をとり、活動をコーディネートしていく気持ちで児
童生徒を見守り、しっかり試行錯誤させる。

② 児童生徒が学びやすい環境づくり

- 道具や材料の準備
必要だと思う道具や材料をさりげなく準備し
ておいて、児童はそれを自分の考えで選択し活
動を進めていく。
- 自己決定の場づくり
- 図書館司書との連携



こんにやくに関する本

ミツバチに関する本
はちみつを使った料理本

○学習の足跡の掲示



③ 系統表に沿った見取り

「つきたい力・なりたい姿」の系統表に沿って、
本時の児童生徒の姿がどうであったか、またそ
のための手立ては有効であったかについて協議
する。



ICT活用(ジャム
ボード)



月に一度の研究担当者会

一年目は、オンラインで担当者会を行っていましたが、やはり、顔を合わせて話をする方が、
遠慮なく交流することができました。困っていることや共有すべきこと、また、進捗状況等の確
認をしました。町内共通サーバでのデータの共有も効果的でした。

Ranking BEST3



「立ち止まりポイント」の効果的な位置づけ



本物にふれる



児童生徒が学びやすい環境づくり

実際に探究を行ってきた中学校区の先生方に「本物の探究」を目指すためのおすすめのお組を聞いてみました!!その理由も吹き出しで紹介!

「主体的に」活動させるために、これは外せない!

立ち止まりポイント編



三和小1年生 生活科「なつとなかよし」

水遊びの道具ができた後、「運動場の砂場を使って水遊びをすることができるよ。」と教師が伝えると…

でも、砂場には水がないよ。
近くに水道もない。

たくさんバケツを用意して砂場へ水を運ぼう。

無事、じょうろやホースを使って水を確保することができました。



子どもが学習に、より本気になる姿が見られる!

困ったことがある→解決するのサイクルが増えることで、問題解決の力がつくだけでなく、子どもの自信や意欲につながる!

「神石のよさを伝える」という目的は変えず、その達成のために「売る」という活動を3回スパイラルに行ったことで、既習事項を活かす力や、実社会での販売の難しさや達成感を味わうことができ、ワクワクドキドキの総合につながった!

失敗から改善方法を考えることで、新たな学びになる!

ここで、子どもの思考が深まる!

子どもがより自分事として、深く追究しようと意識が高まる!

来見小3年生 総合的な学習の時間「めざせこんにやくマスター」

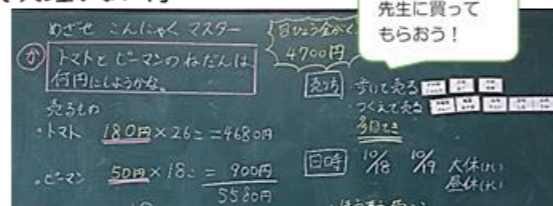
「こんにやくを使った料理が作りたいけれど…材料を買うお金がない!」

自分たちが作った野菜を売ったらどう?

今の5年生たちも学校のグラウンドで売っていたね!

校長先生にお願いに行こう!

放送もして、買ってもらうようによびかけよう!



実際に校内で先生に売って、材料費を集めることができました。

来見小4年生 総合的な学習の時間「182ステーションで、いいもの売り隊」

「神石のよさ」を伝えるパンを考えてパン屋さんに提案するという活動。あるグループは、話し合うたびに作りたいパンの案が二転三転。なかなか決まらずグループのやる気も下がりがつあり、「これはもう限界かな?」と判断した指導者が、「みんなに相談してみる?」とファシリテート。そしてみんなに聞いて肯定的評価をもらうことで、グループ内にやる気が戻り、笑顔で次の活動へと進んでいきました。



私たちが考えたのは、パンじゃないんだけど…どうかな。

来見小6年生 総合的な学習の時間「私達の現在・過去・未来」

自分たちが将来つきたい職業の方に直接お話を聞いて、自分の生き方につなげていきたいと思った6年生。ウエディングプランナー、保育士、漁師など、来てもらえない場合はzoomでつなぎ、本物のお話を聞くことができました。職業は違っても「相手のことを考えることが大切」など共通することもあり、自分の生き方に参考ができることは何かを考えながら聞くことができていました。



机上の空論とならない!

本物にふれる編

三和中1年生 総合的な学習の時間「神石の魅力再発見」

神石の魅力はたくさん知っているけれど…そこに携わる生産者の生の声に耳を傾けたことはある?



生産者の思いを汲んで、実現可能な範囲で自分たちにできることはないか目的意識をもって話を聞き、次なる自分たちの課題を考えることにつなげました。

新しい気づきができる!

子どもは経験がないと(ゼロベースだと)新たな考えは出せない!

三和中3年生 総合的な学習の時間「神石の未来に向けて」

人口増加のためにできることを考えた生徒は、自ら観光協会に掛け合い、自分たちの考えたツアーを提案したのですが…

7口の意見

他の地域と差別化できる推しポイントは?

対象とする年齢層は?

移動手段はどのようにするの?

子どもが自分の生活に活かそうとする!

本物を見る・体験するからこそ、興味や意欲が湧く!

計3回のプレゼンを経て、見事に1つのツアー(高齢者を対象とした「神石高原町でのんびりしませんか」ツアー)が実際に検討されることになりました。

学びやすい環境づくり編

来見小2年生 生活科「くんくんそだて! みんなのやさしい」

指導者は「自分が育てている野菜が他の友だちの野菜と絡まりそう。」「葉っぱに虫が来ている。」という困り事に対して、児童がどんなものを必要とするのかを予想して、様々な物を準備しました。その中から児童は困りごと解決のために必要な物を選んだり組み合わせたりしていききました。



子どもの「やってみよう!」「調べたい!」を叶えるためには、教師が引き出しをもっておかななくては!

三和小5年生 総合的な学習の時間「誕生! 神石 food!」

児童がハチミツやミツバチについての知識が深まり、活動を広げていくことができるように図書館司書と連携し、関連する本のコーナーを教室やワークスペースに設置しました。



三和小4年生 総合的な学習の時間「地域の野菜を使ったオリジナル料理を食べてもらおう!」

学習の足跡を掲示することで、活動のつながりを意識するとともに、今後の活動に活かすことができるようにしました。作る料理を決めたり、レシピを調べたりすることに、夢中になるあまり、目的は何かということをおぼろげに忘れている児童の様子を捉えた指導者は、それまでの学習を振り返る時間を設けました。児童は、掲示を見ながら振り返ることで、本来の目的を再確認し、軌道修正することができました。



環境を整えることで、教師のこえかけがなくても、子どもの学びは進み、深まる!

これまでの学習を振り返るのにとっても便利! そうだった! あんなこと考えていた!